

北塩原村(福島県): 1. 喜多方～裏磐梯バス路線 / 2. 桧原湖周遊バス 生活・観光路線へのバス導入

人口	3,475 人	モード	路線バス
面積	233.94 km ²	法令	道路運送法 第4条
人口 密度	14.85 人/km ²	運営 主体	1. 磐梯東都 バス 2. 北塩原村



■ 取組の背景

地域と交通の状況

【生活交通の確保】【観光振興の必要性】【過疎地域】

- 北塩原村は福島県北西部に位置する農業を主要産業とする過疎の村で、裏磐梯地区に五色沼や桧原湖等の観光地を有する。村の東側は猪苗代町、西側は喜多方市に隣接する。
- 喜多方市から同村大塩裏磐梯温泉地区までは、かねて会津乗合自動車(会津バス)が運行されていたが、大塩裏磐梯温泉地区から裏磐梯地区に至る路線がなく、住民から路線設置の要望がなされていた。
- また桧原湖畔は風光明媚な観光地であるが、周遊観光ルートに公共交通機関が存在していなかった。

活用メニュー(制度・協議会等)

- 喜多方～裏磐梯路線の設置について、北塩原村では会津バスとの協議を行っていたが、採算面から実現が難しかった。その後、地元でホテルを運営している東都自動車交通が磐梯東都バスを新たに設立し参入、路線開設要請に応じることとなった。
- 桧原湖周遊バスについては、村が運営主体となってバイオディーゼル燃料(BDF)を活用するレトロバスを導入することとなった(写真)。

■ 実現したサービス

サービス内容

【路線設置】

➤ 喜多方～裏磐梯路線

- 平成15年4月、磐梯東都バスが定期路線バスとして新規参入した。
- 喜多方～裏磐梯間に路線を開業し、通勤、通学といった生活移動手段の確保のほか、観光のための移動手段としても利用できる路線が実現した。
- 磐梯東都バスはその後も裏磐梯地区から猪苗代市を結ぶ路線などにも参入し、北塩原村を中心とするエリアにバスネットワークを築いている。

➤ 桧原湖周遊バス

- 平成16年7月、バイオディーゼル燃料(BDF)を活用した桧原湖周遊バス「森のくまさん」が導入された。
- 北塩原村が運営主体となって、磐梯東都バスに運行委託している。
- 村では平成14年から廃食用油を一部の地域から回収し、公共施設の一般ボイラーの燃料(A重油)と混合して再利用を開始した。さらに平成16年には村内全域を廃食用油の回収対象とし、循環型社会の形成を進めるために軽油代替燃料化装置を導入していた。
- 当時、桧原湖を一周する公共交通機関はなく、また、この装置で精製される軽油代替燃料を利用するためにレトロ調バスが導入された。
- 桧原湖一周のコースが1日2本、一部区間を巡回する高原周遊コースが1日3本運行されている。
- 桧原湖一周で乗降自由の「桧原湖フリー周遊券」が大人1,000円、子供500円で発売されている。

■ 効果と負担

効果

【利便性向上】

- ・ いずれの路線も利用者の利便性向上に寄与した。
- ・ 喜多方～裏磐梯路線を含む磐梯東都バスの利用者数は、平成 18 年度 187,386 人、平成 19 年度 239,909 人であった。
- ・ 桧原湖周遊バスの利用者数は、平成 18 年度 8,618 人(1 日当たり約 55 人)、平成 19 年度 7,079 人(1 日当たり約 46 人)であった。

負担

【市町村負担】【都道府県負担】

- ・ 喜多方～裏磐梯路線を含む磐梯東都バスについては、平成 19 年度運営費は 75,886 千円、収入は 47,808 千円であった。残りを国県補助や村の支援により賄っている。
- ・ 桧原湖周遊バスについては、平成 19 年度の村の負担額は 2,700 千円であった。

■ プロセスと調整

新規参入事業者への行政支援

【調整:対交通事業者】

- ・ 村では、従来より裏磐梯～喜多方間の公共交通整備を進めたい意向を持っていたが、なかなか実現できない状況にあった。平成 14 年の道路運送法の改正に伴い、新たなバス事業者の参入も可能となったためバス会社より提出された運行計画書を検討し運行が開始された。
- ・ 地域の公共交通を維持するため、新規参入したバス事業者に対して行政としての積極支援を行った。

■ 創意工夫・知見・教訓

生活交通と観光交通の双方に活用

【創意工夫:運営の工夫】

- ・ 喜多方～裏磐梯路線は、村の高校生が自宅を離れて下宿生活を余儀なくされている現状を解消するために始まったものであるが、自然豊かな裏磐梯地区と食文化で有名な喜多方市を結ぶ路線における観光の移動手段としての役割も考え、生活交通と観光交通の双方に便利な路線を設置することで、多様な顧客層の利用促進を図っている。
- ・ さらに高齢者に対し、公共交通機関が存在することで外出の機会を増やし、健康増進に寄与することも期待している。

バイオディーゼル燃料(BDF)の活用

【創意工夫:運営の工夫】

- ・ 村で実施されていた廃食用油のリサイクル事業と連携し、その事業で精製されたバイオディーゼル燃料(BDF)を用いて桧原湖周遊バスを運行した。
- ・ このことによって観光と環境保全の調和を図ることを目的としている。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：北塩原村総務企画課・住民ふれあい課 電話 0241-23-3111